

科目名	生物基礎演習	単位数	1	必修選択	選択
教科書	なし				
副教材	大学入学共通テスト対策チェック&演習生物基礎(数研出版)				

教科・科目の内容

共通テストの生物基礎に対応するには、以前、学習した生物基礎のどの單元に対しても問題を解けるようにしておかなければなりません。演習の授業を通して問題を解けるようにしていきましょう。

日常生活や将来とのつながり

この科目においては2つの目標があります。1つ目は、受験に関わる1科目である「生物基礎」で、より高得点を狙うということです。以前に学習して苦手意識を持った分野があるかもしれませんが、この演習で問題を解くことを積み重ねていけば、必ず克服できるはずで、より高い目標に到達できるように努力しましょう。

2つ目は、現在、日常生活において、生物に関わる物品(生け花や野菜、ペットなど)があふれています。これらが私たちの生活をより裕福にしているわけです。それらに対して知識を持てば、より豊かに生活が送れるはずで、その知識をこの演習を通じて養っていきましょう。

この授業の学習方法(予習と授業の関わり)

予習として、「生物基礎」の教科書を読んでおくこと、ノートを見直すなど再確認してください。また、演習する問題をあらかじめ解いておきましょう。自分で一度解くことで分からない所が発見でき、授業でどの説明を集中して聞けばよいかなど、効率の良い学習につながります。また、復習として授業で扱った問題の類似問題を自主的に解くことも必要です。

生物基礎演習の学習では、上述したように予習、復習は重要です。その上で説明をよく聞き、板書はもちろん、口頭説明でも重要と思われることは全てメモを取りましょう。

到達目標

日常生活や社会との連携を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって演習問題に取り組み、生物学的な見方、考え方や探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、共通テストの当該科目で高得点をとることができるようになる。

評価の観点(評価方法)

① 関心・意欲・態度(行動観察・小テスト)

日常生活や社会との関連を図りながら自然現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、生物学的な見方や考え方を身につける。

② 思考・判断・表現(行動観察・定期試験)

自然の事物・事象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できる。

③ 技能(定期試験)

自然や自然現象に関する観察、実験などから得られたグラフや表の中から必要な情報を取り出し、活用することができる。

④ 知識・理解(小テスト・定期試験)

自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につける。

指導学年	科目名	単位数	教科書名(出版社)	副教材名
3年	生物基礎演習	1	なし	大学入学共通テスト対策チェック &演習生物基礎(数研出版)

学期	学習内容	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価の観点			
			関	思	技	知
一 学 期	生物の特徴、遺伝子、体内環境の恒常性について副教材を用いて問題演習を行い、それぞれの要点を解説する。	<ul style="list-style-type: none"> 細胞の働き及び代謝について演習問題を通じて、理解し、要点を整理する。 DNAの構造及び遺伝子について演習問題を通じて、理解し、要点を整理する。 生物の体内環境を維持する仕組みについて演習問題を通じて、理解し、要点を整理する。 	○	○	○	○
	期末テスト			○	○	○
二 学 期	免疫及び植生、生態系について副教材を用いて問題演習を行い、それぞれの要点を解説する。	<ul style="list-style-type: none"> 免疫の機能について演習問題を通じて、理解し、要点を整理する。 植生やバイオームについて演習問題を通じて、理解し、要点を整理する。 生態系や物質循環について演習問題を通じて、理解し、要点を整理する。 	○	○	○	○
	主にグラフや表を読み取る問題を演習する。	<ul style="list-style-type: none"> 共通テストで頻出しているグラフや表を伴う問題を行い、正確に読み取り、必要な情報を活用できる力を身につける。 		○	○	○
三 学 期	副教材に付属された共通テスト模擬問題などを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 共通テストの模擬問題を行うことで、共通テストの形式に慣れる。 	○	○	○	○

備考	
----	--